

JET STREAM Forever

⑧ 坂のある風景 *Summertime in San Fransisco*

1. ミスターロンリー	Mr. Lonely(B.Vinton/G.Allan)	2:33
2. ジッパ・ディ・ドゥ・ダー	Zip-A-Dee-Doo-Dah(R.Gilbert/A.Wrubel)	2:33
3. 坂のある風景	Summertime in San Fransisco(G.Takahashi)	1:36
4. 思い出のサンフランシスコ	I Left My Heart in San Fransisco(G.Cary)	2:55
5. YMCA	YMCA(J.Morali/H.Belolo)	4:23
6. ライク・ア・ヴァージン	Like A Virgin(T.Kelly/B.Steinberg)	3:43
7. マホガニーのテーマ	Do you know where you're going to(G.Goffin/M.Masser)	3:22
8. ニューヨーク・ニュー・ヨーク	New York New York(J.Kander)	3:38
9. トップ・オブ・ザ・ワールド	Top of the World(J.Bettis/R.Carpenter)	3:02
10. 春を待つ街角	The Gray Town(G.Takahashi)	1:24
11. アンチェインド・メロディー	Unchained Melody(A.North)	5:37
12. イエスタディ・ワンス・モア	Yesterday Once More(R.Carpenter/J.Bettis)	4:30
13. ニューヨークの秋	Autumn in New York(V.Duke)	3:40
14. 雨に歌えば	Singin' in The Rain(N.H.Brown/A.Freed)	2:48
15. サウンド・オブ・サイレンス	The Sound of Silence(P.Simon)	3:27
16. ソング・フォー・ユー	A Song For You(L.Russel)	4:29
17. ジャンバラヤ	Jambalaya(H.Williams)	3:27
18. カントリー・ロード	Take Me Home Country Roads(B.Danoff/T.Nivert/J.Denver)	3:27
19. ひとりぼっちのオルゴール	Moments to Remember(G.Takahashi)	2:08
20. スマイル	Smile(C.Chaplin/G.C.Parsons/J.Turner)	3:12
21. 夢幻飛行	Midnight Cruise(R.H.Wells)	3:57

ナレーション入り

(CDの取り扱い上のご注意) ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽く拭き取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。(CDの保管上のご注意) ●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上にも重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

城 達也 ナレーション

ミスターロンリー

遠い地平線が消えて深々とした夜の闇に心を休める時、遙か雲海の上を音もなく流れ去る気流は、たゆみない宇宙の営みを告げています。満天の星をいたかく果てしない光の海を、ゆたかに流れ行く風に心を開けば、きらめく星座の物語も聞こえてくる、夜の静寂の何と艶舌のごとくでしょうか。光と影の境に消えて行った遙かな地平線も、臉に浮かんでまいります。

坂のある風景 〈恋人〉

君は、マックス・ホテルの夏を覚えているか。サンフランシスコの滞在を一日のぼしにして、フロントにかけ合うのもおっくうになった。あれは、ユニオン広場に近い便利なホテルで、旅の終わりには又、お互い、あそこでおち合おうと約束していたのだったが…。南部から来た中年紳士が「東洋の神秘だ」とか何だとか、手当たり次第に君のことをおたで上げて、休暇旅行の旅先を君のラスベガス行きにあわせて、一緒に出かけて行ってしまった。ラスベガスはどうだったのか…。クラブスで当たり続けて、君はうまうまと東部行きの切符を手に入れたと、噂には聞いたが…。

春を待つ街角 〈大都会〉

マンハッタンビルの林が、冬をむき出しにして枯れ果てた街路樹は、灰色の町並みに消えている。マンホールから立ち昇る蒸気が、ここえた町のはく息のように白く、少し無口になった町を、レモン色も鮮やかに駆け抜けるタクシーが、実は充分に元気だと云っている。警笛を呼び交わす声に代え、ウィンドシールドのワイパーの跡を、思いつめた顔に似せて、車は戻りのない道を駆けていく。「春まで、あと何マイル」そんな標識があればいい。じつと耐えている人も、及び腰の人も、待ちきれず荷造りを始めた人も、どんなに励まされるか知れないから…。

ひとりぼっちのオルゴール

スプリングラーが、水切りの音を刻んで、ハリウッドの老夫婦の家に感謝祭が近づいている。娘一家の里帰りの日は更に間近だ。老夫婦は今年のクランベリーは気に入らないと、台所でぶつぶつ云っている。老人は車庫へ出向いて、又一寸、車にワックスを掛けて見る。老人が、年代物のコンバーチブルを念入りに磨き上げているのにはわけがある。七面鳥を片づけた翌朝、一家総出でソルバングへ遠出をしようというのだ。そこは、牧場に囲まれた、お伽話のようなデンマーク村で、娘が小さかった頃、よく連れて行った。洒落たオルゴールの店があって、土産に買ったオルゴールを、娘は今も時々取り出して聞くと云っていた。その曲の名を老人は忘れてしまったが、今度は孫娘の為に一つ買ってやりたい。オルゴール屋の主人も、もう随分年をとったことだろうが…。

夢幻飛行

夜間飛行のジェット機の翼に点滅するランプは、遠ざかるにつれ次第に星のまたたきと区別がつかなくなります。おくりしておりますこの音楽が、美しくあなたの夢にとけ込んで行きますように…。